

[自主研究]

生態園における昆虫類等多様性モニタリング調査

嶋田知英 小川和雄 三輪誠 長田泰宣

1 目的

埼玉県環境科学国際センター内にビオトープとして整備された生態園は、今後、様々な昆虫や鳥類が侵入定着し、新たな生態系がかたち作られることが期待されている。

そこで、生態園管理のための基礎的資料を得るとともに、新たなビオトープ創造に必要な情報を収集するため、野生生物の発生経過を調査した。

2 方法

2.1 鳥類調査

生態園における鳥類の生息種数、個体数を、ライントランセクト法を用いて調査した。調査は2000年4月14日から概ね週1回行った。また、定期調査以外にも、適宜生態園内を巡回し、出現した鳥類の種類を記録した。

2.2 昆虫調査

鳥類調査と同時に、目撃したチョウとトンボの種類を記録した。また、定期調査以外にも、適宜生態園内を巡回し、出現したチョウ及びトンボの種類を記録した。

3 結果

3.1 鳥類調査

2000年4月より2001年2月までの間に、計30種の鳥類が確認された(表1)。多くは県東部地域で普通に見られる種であるが、ハヤブサやカワセミなどレッドデータブックで希少野生生物とされる鳥類が6種確認された。

最も優先していた種はスズメで、全観察個体数の37.7%を占め、続いてヒヨドリ16.6%、ムクドリ11.2%であった。

3.2 昆虫調査

2000年4月より2001年2月までの間に、チョウ26種、トンボ14種が確認された(表2)。また、アオスジアゲハ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ベニシジミ、ヒメジャノメ、キチョウ、キタテハ、ゴマダラチョウ、コムスジ、ヒオドシチョウ、アジアイトトンボ、アキアカネ、ナツアカネ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、ギンヤンマ、オオヤマトンボは生態園内で幼虫が確認され定着しているものと考えられた。

4 今後の研究方向性

継続的に調査を行い、経時的な動物相の変遷や、植生との関連等について検討する。

表1 埼玉県環境科学国際センター生態園における鳥類の消長

科名	和名	2000年												優占度 (%)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
アトリ科	カワラヒワ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	8.6
	シメ	■												0.6
ウ科	カワウ												■	0.1
カラス科	ハシブトガラス			■					■	■	■	■	■	1.5
	ハシボソガラス				■				■	■	■	■	■	0.5
カワセミ科	カワセミ											■	■	0.4
ガンカモ科	カルガモ												■	0.7
キツツキ科	コゲラ			■										0.1
サギ科	アオサギ											■	■	0.4
	ゴイサギ											■	■	
	コサギ		■									■	■	0.9
シギ科	タシギ											■	■	0.2
セキレイ科	セグロセキレイ												■	0.1
	ハクセキレイ	■	■											2.3
チドリ科	コチドリ		■											0.1
ツバメ科	ツバメ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	6.7
ハタオリドリ科	スズメ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	39.3
ハト科	キジバト	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	3.1
	シラコバト												■	0.5
ハヤブサ科	ハヤブサ												■	0.2
ヒタキ科	ウグイス												■	0.1
	ジョウビタキ												■	0.1
	ツグミ												■	0.6
ヒバリ科	ヒバリ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	1.8
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	17.3
ホオジロ科	カシラダカ												■	1.2
	ホオジロ												■	0.4
ムクドリ科	ムクドリ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	11.7
メジロ科	メジロ												■	
モズ科	モズ												■	0.5

表2 埼玉県環境科学国際センター生態園における昆虫の消長

科名	和名	2000年											
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	アゲハ												■
	カラスアゲハ												■
	キアゲハ												■
	クロアゲハ												■
	ジャコウアゲハ												■
シジミチョウ科	ウラギンシジミ												■
	ウラナミシジミ												■
	ツバメシジミ												■
	ベニシジミ												■
	ヤマトシジミ												■
	ルリシジミ												■
ジャノメチョウ科	サトキマダラヒカゲ												■
	ヒメジャノメ												■
シロチョウ科	キチョウ												■
	ツマキチョウ												■
	モンキチョウ												■
	モンシロチョウ												■
セセリチョウ科	イチモンジセセリ												■
タテハチョウ科	キタテハ												■
	ゴマダラチョウ												■
	コムスジ												■
	コムラサキ												■
	ヒオドシチョウ												■
	ヒメアカタテハ												■
	ルリタテハ												■
アオイトトンボ科	アオイトトンボ												■
イトトンボ科	アジアイトトンボ												■
カワトンボ科	ハグロトンボ												■
トンボ科	アキアカネ												■
	ウスバキトンボ												■
	コシアキトンボ												■
	シオカラトンボ												■
	ショウジョウトンボ												■
	チョウトンボ												■
	ナツアカネ												■
	ノシメトンボ												■
	マイコアカネ												■
ヤンマ科	ギンヤンマ												■
エゾトンボ科	オオヤマトンボ												■

※ ■は調査時に各種が確認されたことを示す。